

石見銀山遺跡

ニュース

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site

September 2008 NO.13

平成20年9月24日発行 第13号

島根県・大田市教育委員会



>> Contents

page 2~3	石見銀山世界遺産センターフルオープン…………… 島根県 目次謙一 ユネスコ憲章の精神
4~6	世界遺産登録1周年記念事業 記念シンポジウム・講演会…………… 島根県 和田守弘・田原淳史 石州銀展…………… 島根県 田原淳史 大田市(記念イベント)…………… 大田市 長嶺康典
7~8	基礎調査研究事業から (1)発掘調査…………… 大田市 新川 隆 (2)石造物調査…………… 島根県 守岡正司 (3)文献調査…………… 島根県 目次謙一
9	整備事業から 町並みを歩く①…………… 大田市 松浦 満・今田善寿
10	石見銀山遺跡保存管理委員会…………… 島根県 佐々木慎二
11	石見銀山基金募金委員会…………… 大田市 中村弘幸
12~13	石見銀山遺跡の今 (1)ゴールデンウィークの状況…………… 島根県 引野佳幸・和田守弘 (2)大久保間歩の一般公開…………… 大田市 長嶺康典
14	2007年度 石見銀山学講座
15	石見銀山のガイド活用のおすすめ…………… 石見銀山ガイドの会 和上豊子 石見銀山遺跡調査活動等日誌抄
16	新任のあいさつ…………… 大田市 小野康司・島根県 大矢敬子

〔10月20日にフルオープンする石見銀山世界遺産センター〕

石見銀山世界遺産センター

1. 世界遺産センターのご紹介

いよいよこの秋、平成20年10月20日に、世界遺産石見銀山遺跡の拠点となる施設がフルオープンします。その名も石見銀山世界遺産センター。

平成19年7月にユネスコの世界遺産に登録されて以降、数多くの方が訪れている石見銀山遺跡の総合案内窓口として、昨年10月には先行してガイダンス棟がオープンいたしました。木造瓦葺き平屋763㎡のガイダンス棟では、初めて訪れる方々を中心に、広範な石見銀山遺跡の概要と価値を分かりやすく情報提供してまいりました。あわせて、約400台の駐車場と路線バスの連携による「石見銀山パークアンドライド」の拠点としてもご利用いただいています。

今回のフルオープンにあたって新たに加わるのは、展示棟と収蔵体験棟の2つの施設です。展示棟では、石見銀山の歴史と技術を分かりやすく紹介する展示をご覧いただきながら、模型や映像を通して遺跡の価値を体験できることでしょう。また、石見銀山遺跡の調査研究の中心地として、その最新の成果も公開していきます。

収蔵体験棟では発掘調査の出土品を収蔵するとともに、石見銀山遺跡について体験学習を企画し、遺跡の価値を楽しみながら学べる様々なプログラムを実施していきます。

2 展示の内容

ガイダンス棟の入口すぐに広がるエントランスホール。地元産のヒノキの柱とマツの梁材で組み上げられた開

放的な空間の一角から、展示空間へと入ってゆきます。その入口では、出迎えてくれる御取納丁銀の大きな銀製オブジェに驚かれることでしょう。

最初のコーナー「世界に影響を与えた石見銀山」では、石見銀山の銀が東アジアから世界へつながり、文化・経済の交流に役割を果たしていたことをご紹介します。

展示棟に入るとすぐは、石見銀山発見のエピソードを映像・音響・展示品で象徴的にまとめた空間です。石見銀山の歴史を紹介するコーナーでは、博多の商人神屋寿禎から奉行大久保長安に至るまで、時代の流れとともに石見銀山の変遷をご覧いただけます。また、石見銀山ゆかりの清水寺についても、展示品や解説でご紹介しています。

次は、鉱山のくらしと技術を紹介するコーナーです。数多くの人々が暮らし鉱山町が栄えていたという、最盛期の石見銀山(本谷地区)を復元した模型が見どころの一つです。狭い谷間に家が建ち並ぶさまが、大迫力で再現されています。展示室中央では、17世紀初めの精錬所建物を実物大で再現しており、鉱石から銀を取り出す精錬作業のようすをご覧いただけます。また、精錬作業を含め銀の貨幣ができるまでの一連の工程を、同スケールの模型3点を使って分かりやすく解説しています。

続いては鉱山と石見銀山遺跡の調査研究を紹介するコーナーです。まずは大久保間歩内部の復元模型に入ってみてはいかがでしょうか。現地での型取りによって作られた内面の質感は、本物と見間違えるほどです。調査研究を紹介するパネルとともに、福石・永久2つの鉱床の



鉱山とくらしコーナー(イメージ)

フルオープン

10/20 (月)

この度オープンします展示棟の一般の方の入館は午後1時からです。

島根県世界遺産室 目次 謙一

坑道分布を再現した模型もじっくりご覧ください。ガイダンス棟側出口手前の文化的景観のコーナーでは、石見銀山遺跡の美しい映像を中心に構成しています。

3. まとめ

以上、世界遺産センターの展示を中心にご紹介してきました。来館いただいた方々には、歴史や技術など多岐にわたる展示をご覧いただくことによって、石見銀山遺跡

や鉱山について理解できるよう、いろいろな工夫をこらしています。

また、企画展示室では、石見銀山遺跡の調査研究成果をいち早くご紹介していきます。情報ギャラリーは、「石見銀山周辺模型」を中心に、石見銀山の現地へ誘うガイダンス展示コーナーです。

展示棟と収蔵体験棟が揃い、フルオープンした石見銀山世界遺産センターへ、みなさまぜひ来館ください。



間歩体感コーナー(イメージ)

16世紀、石見銀山では灰吹法という精錬技法を導入することにより、大量の銀生産を可能にしました。このことが東西文化交流に大きな役割を果たしました。また、環境負荷の少ない生産システムや森林資源の計画的な管理により、豊かな自然環境と一体となった独自の文化的景観を作り出しました。

このような特徴を持つ石見銀山遺跡は2007年7月2日にニュージーランドで開催された国連教育科学

文化機関(ユネスコ)の第31回世界遺産委員会において世界遺産に登録されました。その調査研究や情報発信はユネスコ憲章の精神に則って行われます。

ユネスコ憲章では「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とうたい、「文化の広い普及と正義・自由・

ユネスコ 世界遺産



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Iwami Ginza Silver Mine and
its Cultural Landscape
Inscribed on the World Heritage List in 2007

平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果たさなければならない神聖な義務である」と宣言しています。

また、ユネスコの目的は「世界の諸人民に対し人種、性、言語又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、

人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助

長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を推進することによって、平和及び安全に貢献すること」です。

このようなユネスコの精神や目的に沿って、島根県・大田市では石見銀山遺跡の調査研究・情報発信などの諸活動を行っていきます。

石見銀山遺跡世界

全国4会場でのイベント

島根県世界遺産室 和田 守弘・田原 淳史

平成19年7月2日に世界遺産に登録されて以降、石見銀山遺跡はその注目度が格段に増加し、各種メディアや出版物や販売物については登録前と比べものにならない勢いで発売されています。

また来訪者も登録後の1年間(平成19年7月から平成20年6月まで)では、登録前と比較して、ほぼ2倍の約91万人が訪れました。

そのように注目されている石見銀山遺跡ではありますが、来訪者の方々がその価値を十分理解しているとは未だ言えません。

そこで、「石見銀山遺跡とその文化的景観」が、世界遺産に登録されて1周年を迎えるのを記念して、島根県と大田市ではより多くの方にその価値を理解していただくために全国4会場イベントを開催いたします。

先日開催した記念シンポジウムについての概要報告と、その他のイベントについて開催予定をお知らせいたします。



会場に設置した石見銀山コーナー

1. 記念シンポジウム

7月19日(土)に東京都江戸東京博物館の大ホールにおいて開催した記念シンポジウムは、約400人に参加していただきました。

まず、世界遺産推薦書に添付した映像を上映し、つづいて石川県立歴史博物館館長の脇田晴子氏に「世界経済史の中の石見銀山」というテーマで基調講演をい



パネルディスカッション

ただき、東京大学大学院教授の村井章介氏、石見銀山資料館理事長の中村俊郎氏、大田市教育部長の大國晴雄氏を加えた4名のパネリストとNHK解説員の毛利和雄氏をコーディネーターにパネルディスカッションを行いました。

脇田氏の基調講演では、石見銀山の発見から灰吹き法の導入、そして石見銀山が欧州のアジアを植民地化しようとする危機を乗り越えて銀鉱山として花開き、日本の歴史経済を動かして国際情勢に影響を与えたという内容を紹介していただきました。

パネルディスカッションでは、まず毛利氏から近年の世界遺産の状況の説明があり、村井氏にアジアでの銀の流通について、中村氏と大國氏に地元の民間と行政の立場から石見銀山遺跡の価値についてお話をいただきました。

議論の最後には、石見銀山遺跡の今後課題や地域のあり方として、脇田氏からは石見銀山をより多くの方に知ってもらうために資料の展示などこれまでの研究発表をして、観光地化することなく今のままの姿を守ること。村井氏からは石見銀山は一見して分かるものがなく歴史に対する想像力が必要となるため、「教育」と「導き」をうまく機能させて世界遺産として認識を深めてもらうこと。中村氏からは地元では石見銀山へ愛情をもって住む喜びを感じており、石見